

(28) ゆり

ア 各病害虫の防除

茎腐症(リゾープス菌)

茎腐病

炭疽病

葉枯病(ボトリチス菌)

ウイルス病

アブラムシ類

ネダニ類

ア 各病害虫の防除

【留意事項】

(□は総合防除計画に掲載している病害虫)

茎腐症(リゾープス菌)

(判断、防除に関する措置)

- 1 茎葉、鱗茎が腐敗する。茎葉では地際部に褐色水浸状の病斑が現れ、軟化腐敗する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 薬剤を処理する。

茎腐病

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 薬剤により土壌消毒を行う。(共通防除の章の[資材・苗床・本ほの消毒の項](#)を参照)
- 2 発生初期に薬剤のを施用(散布)する。

炭疽病

(耕種的・物理的防除)

- 1 種球では、植付前に病斑のあるりん片を取り除く。

葉枯病(ボトリチス菌)

(耕種的・物理的防除)

- 1 施設では換気を良くし、発病株は速やかに抜き取り深く埋没する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 梅雨期ころから7~10日おきに数回薬剤を施用(散布)する。

ウイルス病

(判断、防除に関する措置)

- 1 アブラムシ類が媒介するCMV、LSVほか、数種のウイルスが感染する。複数のウイルスが重複して感染し、葉身のモザイク、褪色、湾曲、黄色条斑、えそ病斑、株の生育不良等、激しい症状となる。

(耕種的・物理的防除)

- 1 繁殖用の子球、球芽は健全株から採る。
- 2 発病株は見つけ次第抜き取る。
- 3 寒冷紗等で有翅アブラムシの飛来を防ぐ。

(薬剤防除)

- 1 [本項のアブラムシ類の防除](#)に基づき防除を行う。

アブラムシ類

(耕種的・物理的防除)

- 1 育苗時からアブラムシ類の発生に注意する。黄色粘着テープを施設の出入口や開口部の近く、若しくは苗の近くにつけるし、有翅成虫が飛来していないか確認する。
- 2 近紫外線除去フィルムは成虫の飛来を減らす効果があるので、これらのフィルムを施設の外張りやトンネルに使用する。
- 3 施設では、側窓や天窓などの開口部に寒冷紗や防虫ネット等を張り、成虫の飛来を防ぐ。
- 4 マルチをする場合は、シルバーポリマルチなど忌避効果のあるものを使用する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 気門封鎖剤を散布する。
- 2 くん煙剤の使用については、[共通防除の章の温室・ビニールハウスでのくん煙剤・常温煙霧剤の使用法の項](#)を参照する。

- 3 発生が予想される場合には、薬剤を施用（散布）する。

ネダニ類

（判断、防除に関する措置）

- 1 球根貯蔵中に、高温多湿条件下で活発に活動し、被害が著しい。
- 2 本ぼでは地表面～地下 10cm の根部に多く寄生する。
- 3 ダニが腐敗病菌を伝搬し、発病を誘発する。

（耕種的・物理的防除）

- 1 寄生していない種球を植える。
- 2 ユリ、ネギ、ムギ類等寄主作物の連作を避ける。
- 3 貯蔵球根の温湯消毒(45℃、60 分)を行う。
- 4 土壌の高温、乾燥条件で死滅するので、夏期ハウス密閉、フィルムマルチ被覆による太陽熱処理を行う。

（薬剤防除） [農薬登録情報](#)

- 1 薬剤を施用（散布）する。